

## 平成27年度第1回鳥取県日野地区連携・共同協議会【会議概要】

- 1 日 時 平成27年5月11日（月）午前11時～12時5分
- 2 場 所 日野町役場 大会議室
- 3 出席者 平井鳥取県知事、景山日野町長（会長）、増原日南町長、竹内江府町長ほか鳥取県及び日野郡3町関係職員

### 4 あいさつ(要旨)

【景山会長】日野郡3町と鳥取県との連携・共同協議会ということで走ってまいりましたけれども、もう5年経ちます。いろいろ問題点も派生しておりまして、ここで更に中身を強く協議することができるという連携協約という方向で進めてまいりましたが、ようやく事務方のほうで調整がつかしましたので、本日協議をさせていただきまして、連携協約の締結と連携・共同協議会の廃止を併せてお話をさせていただきたいと思っております。いずれにいたしましてもこの日野郡3町、そして鳥取県の力を借りてこの地域が住み易い、そういう地域にしていきたいと思っております。どうか皆さん方のお力をお借りしたいと思っております。

【平井知事】これまで私たちは、日野郡3町と県との共同の会議を持ち、例えば福祉であるとか、あるいは農業、更には消費者生活、学校教育、いろんなジャンルに亘りまして連携を進めてまいりました。また、道路の維持補修、除雪といったような事業を町と分担をしながら、皆さんの利便性の高いような事業の進め方も他県に先駆けて出来てきたところでもあります。このように鳥取県は全国的にも人口の少ないところではありますが、こうして中山間地の発展のために心を一つにしていけば、新しいシステムを我々のほうから全国へ向け提案をすることもできるという確信も持つに至りました。そのためにもしっかりとした土俵をこの連携の中で作っていければと考えております。そのためにも今日皆様とお話し合いをさせていただければと思っておりますけれども、鳥取県日野郡ふるさと広域連携協約とでも言うべき、新しい連携協約を結ぶことをさせていただければと思っております。県と市町村の垣根も越えて連携協約を結ぶことになれば、これは全国でも初の取組になります。しかもその目的とするところは町域を乗り越えて、あるいは県と市町村との壁を乗り越えてやっという斬新な連携協約でありまして、新しい広域連携のあり方を開くものにもなるかと思っております。是非、各町長さんのご理解も得ながら、6月議会に向けて議論をスタートさせていただける、その準備をスタートさせていただければと思っております。

### 5 会議録署名委員の指名

景山会長が「日南町の増原町長」と「江府町の竹内町長」2名を指名

### 6 議 事

- ・平成26年度事業報告及び決算の承認、監査報告について ⇒ 承認  
事務局八幡事務長から資料により説明

### 7 協議事項

- ・連携協約の締結と協議会の廃止について
- ・地方創生における連携の促進について  
現在の法定協議会から連携協約へ移行することの意思確認がされた。  
地方創生において連携したほうが効果的なものについては、今後取り組んでいくことを確認。

### 8 報告事項

- ・道路維持等専門部会の取組
  - ・農業分野等専門部会の取組
  - ・教育専門部会の取組
- 各部長から資料により説明

## 9 意見概要

### <連携協約締結について>

- 【日南町長】些細なことですが、1つが連携協約の案文です。県と日南町、県と江府町、県と日野町というふうに繋がって行って提携と思いますが、4者での一括の協定としてのあり方のほうが、まとまりがいいのではないかと。それともう1点が、関係会議の中で、年に1回ぐらいは4者の長が集まって無茶振りするような、やはりしっかりした総括をするなり中間のチェックをするようなことがあったほうが私はいいような気がしています。以上です。
- 【小倉部長】連携協約という新たな取り組み、地方自治法に提示されており総務省のほうに確認を取りましたところ、あくまでも1対1の協約であるということ、これが大前提となった制度設計がされているということでございますので、こういう名前でこの広域連携を動かさせていただけたらと思っております。
- 【平井知事】関連して、まず1点目のほうは増原町長と同意見でした。国との折衝の中で連携協約というのが、1対1の契約で得たことが基本になっているようでして、便法として県が仲立ちをしながらするというので、3町間の協約はいかない。つまりそれで一体性のあるものになるということで運用をしてくれと、総務省のほうの有権解釈がどうも強いです。私もよっぽど反論したのですが、これは諦めたところでございます。ただ、こういう形で、タイトルとして「鳥取県日野郡ふるさと広域連携協約」ということで3町同じものを結べば、3町は全く一緒に流れに契約を結んで、四者一体となったもので、運用として増原町長の精神は盛り込むということをお互いに確認しておけばよいのではないかと思います。あともう1点のお話にも賛成でございまして、住民の声を端的に代表して、「こんなものは一緒にやったらいいじゃないか」とか「こういうことを考えてみたらどうか」と。これは多分、若干政治的に動かなければ入ってこなかったパターンだと思います。ですから、基本は副町長さんのレベルで動くのは事務的な動きでありましょうけれども、それとはまた別の意味で、せっかくこういう3町と県との話し合いもできたわけでありますから、これは1回とかあるいは2回とか定期的にやることをこの場で申し合わせたらいいいのではと思います。
- 【竹内町長】意見というより連携協約の事業の中身について、協約は第3条の別表の中でやろうとすることを付け加えたり、例えば終わったものを排除したりという形でよろしいわけですね。その確認です。いろいろなものがこれから出てくると思います。地方創生も含めて、その中で融通性がないといけないと思いますし、自由性が高まっていかなければいけないと考えましたので、お尋ねしたところでございます。
- 【景山会長】ありがとうございました。今、非常に根幹に係わるお話をしていただいたと思います。この協議会ができた時には4者の首長が一堂に会して、「4者でざっくばらんなお話のできる会を作りましょう」というところから始まり、これは、私は非常に効果があったと思います。この同じ環境の中に住む3町の首長、そして今はセンターになっております総合事務所が一緒になって問題を解決していこうと話し合いをしているこの姿というのは、やっぱり無くしてはいけないと思っております。このたびは法に基

づいた連携協約ということで、その立場というものは守りながら弾力的に運用をしていく。そして4者が忌憚のない「この日野郡の振興をどうしていこうか」と、この協約の中でざっくばらんにお話ができる場を年に2回とか、そういうものを設定していくという方向にいったら、今お話があったものが解決するのではないだろうかと思えます。一つの大きな転機に今回はなるわけでございます。更に目的は、効果を高めるということでございますので、今回のいわゆる連携協議会から連携協約への移行としていきたいと思えますが、皆さん、よろしいでしょうか。

【各委員】異議なし。

【景山会長】それでは、今お話をさせていただきました方向に向かいまして、これからのスケジュールに沿ってまいりたいと思えます。

#### <地方創生における連携の促進について>

【景山会長】今、地方創生を本当に全国に先駆けて鳥取県から大きなモデルとしてやってみようということで、いろいろと町も取り組んでいるところでございます。更にその取組の中で、やっぱり日野の3町と県とが力を合わせて、共通な部分として人が住んでくれるような地域づくりをということにどうしても行き着くところがあるわけでございます。皆さん方のご意見を賜りたいと思えます。

【増原町長】 想定している事業分野と具体的な取り組み例ですが、日野高校との連携という話は、これはいいと思えます。地域性があるし、特異性がある。ただ、次の地域ブランドと人口定住みたいな話は、これはもう鳥取県下というか全国の地方創生の取組むべき課題なわけです。これは鳥取県と3町が取組むと特異性のあるということができるとかというのは、ちょっと違うのではないかと。地方創生といってもこれはこれまでのふるさと創生レベルの中の話なのでは。もうちょっとブラッシュアップしたものを出していかないといけないと思えます。ちょっと2番目3番目っていうのは、これを後追いつても地方創生にはならないと私は思っている。だから3町で同じのがあったやつをマルして行って「これは共同にしましょうね」というやり方はやめたほうがよくて、どこかの町が「これは是非ともやりたい」そしたら、それをやっているところがあったら助け合うとか、それからもっと全く新しい分野に3町で共同に取り組むとか、そういうところで是非とも考えていただきたいなというふうに思っています。

【竹内町長】 私は数を欲しがっちゃいかんと思えます。「これでいこう」という柱を作って、さっき提案が増原町長からもありましたが、数を欲しがらずに、こういうことをしっかりやっていくんだと。我々のテリトリー、実現するようにやるんだ、という心構えの基に議論をするべきだろうと思っています。

【平井知事】 両町長さんに私も賛成です。だいたい想像がつきますが、ここに挙がってきているのは、たぶん補助金からひっくり返してきていると思えます。交付金をもらうためには、共同事業にしなければいけない。それで、さっき増原町長がおっしゃったように全部マルがついているところを集めて書いてみたというのが実態だと思います。これで地方創生、勝負してもつままないということになるだろうと思うんですね。ですから、少しとんがったやつを考えて、それを県と3町が連名で出す形にすれば、それに交付金が付く、お金が付きますよっていうふうに言っているだけです。テーマはこれに縛られずにまた考えてみたらいいのではと思えます。地方創生は20年、30年かかる話です。それに向けて、いま取り敢えず今年度の補助金を、交付金をもらうために取り敢えずこれやってみるということ以上に、将来に向けてはここで向こう10年ぐらいは頑張ってみようというテーマを考えていけばいいと思えますね。交付金

だけに縛られずに、この地方創生の連携というのを考えたらいいのではないかと思います。

【景山会長】ありがとうございました。今非常に貴重なご意見をいただき、更に日野郡3町と県が一体となってこの地域をよくするという方向に向かう示唆をいただいたと思いますので、更にこの方向を頭に入れながら計画を進めていただけたらと思います。ということで、地方創生あるいは地域振興に代わる、更なる連携促進についてということで、皆さま方からのお話を聞かせていただきましたので、そのようにこれからも取り図らっていきたいと思います。よろしく願いいたします。皆さん方から特にご意見、聞いてみたいことがありましたらお願いしますが、一括して何かありましたら。

#### ＜教育総合会議と日野高校について＞

【平井知事】4月1日から制度が変わりまして、教育については教育総合会議を3町それぞれに持たれたと思います。私ども鳥取県は前から同じことをやっています、それを踏襲する形でやっていこうと思いますが。いずれにせよ、教育にだいたいコミットできるようになったところでございます。この日野高校の問題も正直申し上げてあまり改善してなくて、これを本当にこういう定員割れが深刻な状況を放置していいのかというのは、これ県の教育委員会の問題だと思っておりますが、私もそれに与る形で、議論していかねばならない立場なのかなと思っています。これに限らず、また中・小学校の学力だとか、体力の向上だとか、それから地域におけるコミュニティスクール的な取り組みとか、教育関係の整備だとか、そうしたことをもっとせっかくこういう3町と県との広域連携会議をできるわけでございますので、その中でまた読み込んで議論していけばいいと思います。そういう教育のこともテーマとして、今後4月1日以降は我々踏み込めるようになったわけでありまして、議論の対象にしてもいいのではないかなと思います。

【増原町長】我々ができることというのは、教育論者とか教員でもないのに、数学を教えたりすることはできないのですけども、人の生き方みたいな話ということを教えることはできるので、それがまた私は総合教育委員会がやるべきことだというふうに思っています。是非ともお互いに、その辺りは逆に言う情報交換をしてやってもいいし、例えば日野町さんは韓国と交流を続けたりされているので、そのクロスオーバーをしてもいいと思う。そういうふうなものってというのはやっぱり大事なところじゃないのかと、そういう話をすべき時代になったのではないかなと思っています。とりとめのない話ですけれども。

【竹内町長】私は1点。コーディネーターを置いていますが、ここで具体的には日野高校支援策の魅力向上コーディネーターが入っていないが、この人の位置付けというのをもうちょっと活用したほうがいいのではと思います。といいますのも、課題というのが相当あると感じました。現場なり高校側、地域側を含めて、やっぱりこのコーディネーターさんをしっかり仲間に入れて、魅力向上という議論しなくては。外から見たもので議論していたって実態に合ってこないと思いますので、今後よろしく願いします。

【景山会長】ありがとうございました。日野高校のコーディネーターさんも本当に熱心に取り組んでいただきまして、かなりの課題を引き上げてこられました。あとこれを解決するということになると、やっぱり教育委員会やあるいは我々の首長の判断にも委ねるところがあると思います。引き続いて竹内町長がおっしゃったような方向で今年度は進めて行かなければならないと思います。日野町におきましても、総合教育会議を先般開かせていただきました。本当に教育の問題は教育委員会というものは、もうそうい

う時代は終わってしまっていて、やっぱりこの事務局でも大いに知恵を出し意見を言って、そしてのちの子どものために一生懸命、この日野郡の環境が子育てにいいなということは、3町が力を併せて県の協力を求めて行かなくてはいけない。こういうことを実感し思い出しているところで、非常にいい制度を作っていただけたなど私は思っております。有効に活用していきたいと思えます。